



スマート保育園® 通信

2021年度

6月号

特集1

保育者の主体性も大切にした
雑談相談の振り返りで、
園へのエンゲージメントがアップ
～認定こども園さくらの例

特集2

パートタイムの先生を巻きこみ楽しくレベルアップする園内研修
～うきは幸輪保育園

コラム1 トマトがある子どもの世界
～カゴメトマトのドキュメンテーション（心育保育園より）

コラム2 保育者からの贈り物

特集1

保育者の主体性も
大切にした雑談相談の
振り返りで、園への
エンゲージメントがアップ
～認定こども園さくらの例

日常の中で、保育の 振り返りが生まれる 豊富な仕掛けを

認定こども園さくらでは、保育者は1人1台iPod touchを所有し、「ルクミーフォト」を使って日常の写真を撮影。撮影した写真は、インターネット上にアップしてコメントを添えて記録しています。

この記録の時点で保育の振り返りをしているのですが、特徴的なのが、この記録を他の保育者と共有し、お互いに写真を見てコメントをつけ合うことで、振り返りの視点を広げていることです。また、その写真とコメントを紙に印刷して玄関に貼り出し、目にする保育者が保育を振り返る機会になるのはもちろん、保護者との会話が生まれる機会も創出しています。



▲認定こども園さくらの玄関。両側にドキュメンテーションが張り出されている

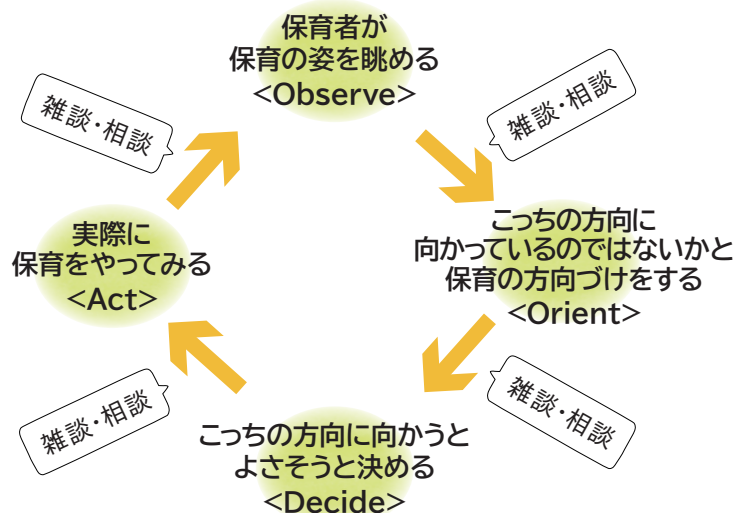


社会福祉法人
鐘の鳴る丘友の会
認定こども園
さくら/さくら
第2保育園
(いずれも栃木県栃木市)

堀 昌浩 園長

4月号の「スマート保育園通信」でご紹介した「振り返りの実践」課題について、成果が上がる取り組みをされている心育保育園の事例に続き、今月号では社会福祉法人鐘の鳴る丘友の会認定こども園さくらで堀先生が実践されている内容をご紹介します。

D-OODAサイクル



具体的な振り返り

保育者が主体的に保育を振り返り、子どもの姿から新しい価値を生んでいけるよう、よく言われているPLAN(計画)に時間がかかるPDCAサイクルではなく、**保育を迅速に柔軟に現場にあわせてデザインしやすいD-OODAというサイクルで保育計画の実行**を行っています。

具体的には、保育者が保育の姿を眺める(=Observe)→こっちの方向に向かっているのではないかと保育の

方向づけをする(=Orient)→こっちの方向に向かうとよさそうと決める(=Decide)→実際に保育をやってみる(=Act)という流れで保育を計画実行していき、それぞれの間を、雑談・相談が埋めているイメージです。

子どもたちには遊び場を、保育者には語り場を

「子どもたちには遊び場を、保育者には語り場を」の方針のもと、職員室は年長の先生の語り合う場に、年少の先生も

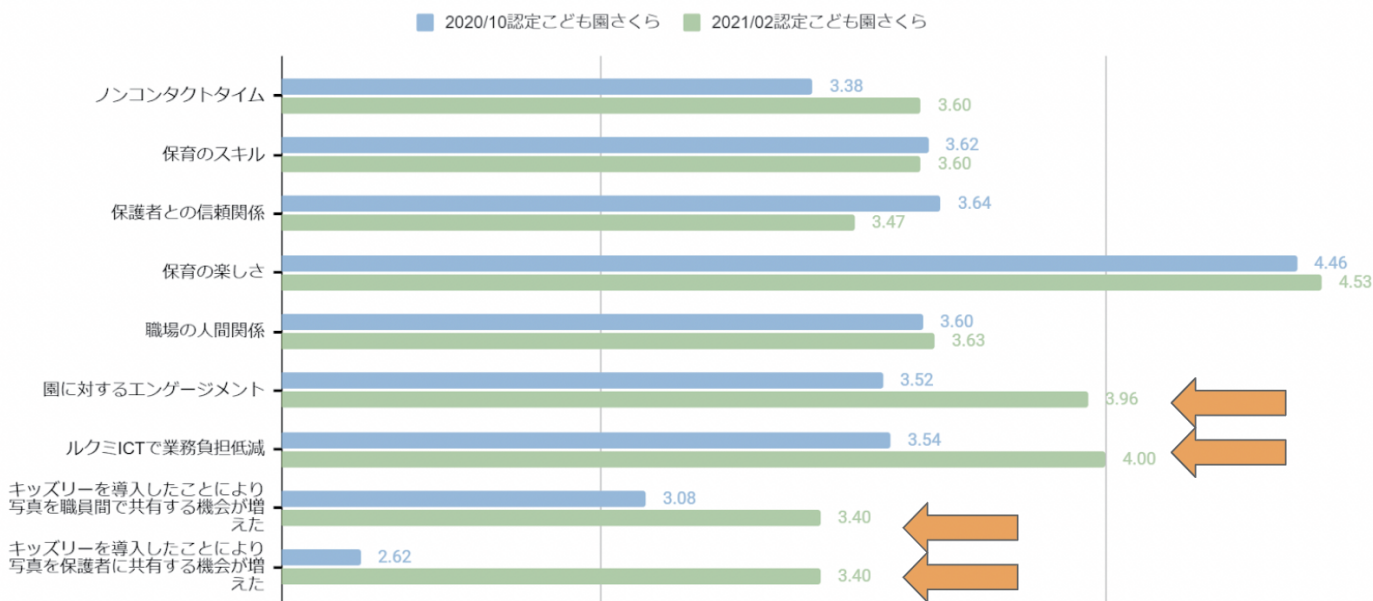
はいつてこられるような「雑踏感」が生まれる場を作っています。

立って話せるようなスタンド型のテーブルや、座って話せるソファなどを置くなどして**職員室で先生たちが雑談を多くできるような場づくり**をしているそうです。そうして**常日頃から雑談と相談を取り入れながら保育を実施することで、職員会議が減り、よりスピーディーに、リアルに子どもたちの姿をシェアし合い、生産的によりよい保育を考えていくことができるようになった**そうです。

このような取り組みの結果、こども園さくらでは、以下の図のように、モデル園効果検証でも業務負担軽減や、保育者の園へのエンゲージメント(愛着心)、写真を職員間や保護者へ共有する機会が増えた、という項目で、スコアが前回調査より増えているという成果が現れてきています。

「振り返り」の実践についてはよくビジネスシーンでもPDCAはうたわれますが、雑談というコミュニケーションを軸にして現場の子どもへの反応を迅速にPLANに反映していくD-OODAのサイクルで振り返りをおこなっていくことは、筆者としては目からウロコな発見でした。今回の効果検証の結果で「振り返り実施」のスコアに成果として現れており、各園での実践アイデアの参考にできれば幸いです。

回答者の平均値推移



▲2021年2月に実施したモデル園効果測定、認定こども園さくらのグラフ。矢印部が上から「エンゲージメント(愛着心)」「ルクミーICT業務負担削減」「キッズリー導入により写真を職員間で提供することが増えた(上)、保護者間で共有することが増えた(下)」でスコアが伸びているのがわかる。

特集2

パートタイムの先生を
巻きこみ楽しく
レベルアップする
園内研修
～うきは幸輪保育園の例

社会福祉法人
幸輪会

うきは
幸輪保育園
(福岡県うきは市)

橋本 美由紀
園長



4月号のスマート保育園通信でご紹介した「スマート保育園の効果検証」で、前回までと比べて「必要な知識スキルを学べる機会がある」「保育の楽しさ」「保護者共有」のスコアを伸ばす成果を出しているうきは幸輪保育園。
今回は当園で実践している、パートタイムの先生を巻き込んだ園の研修の運営についてご紹介します。

毎日のケース会議は パートタイム職員も参加 して多様な意見を得る 場に

うきは幸輪保育園では、毎日午睡中に、ケース会議を実施しています。
主な目的は一日の保育の振り返りが中心。保育者の配置や動線の確認、子どもの様子など細やかな気付きを話し合います。
こちらの会議には、正規職員と、嘱託のほか、パートタイムの先生も3～4名参加しています。
パートタイムの先生は会議に出る機会が少ないため、ケース会議に参加していただき、気づいた点などを細やかに共有し合います。そこで出た意見を正規職員が拾い、保育の見直し・改善に役立てていく流れを作っています。
普段の仕事の流れの中に、パートタイムの先生の意見も広く取り上げられる場を確保することで、チームの現場への知見を上げ、よりよい保育の実践を目指せるようにしています。

より、研修という形にし、「パートタイムの先生にも受けていただく機会を作る」という目的でテーマを選びました。
パートタイムの先生は職場を離れるとご家庭のことで忙しく、保育の仕事に没頭できる時間を確保することは難しいのではないかと考えています。そこで、研修を通じて保育のいろいろな知見に触れ、現場で「ああ、あの研修で受けた話だ!」とつながる事で、目指す保育の姿を身近に感じていただきたいと思います、企画しました。
研修のテーマは、スマート保育園で提供されている「保育のデザイン研究所」のOn-line研修の中から、この時期必要なテーマ(乳児・幼児関連や、保育者の役割などもまぜて)を予め6つ指定しておき、参加する先生がその中から自分が興味あるものを1～2つ選形式にしました。
どの研修に参加したいかはアンケート形式で回答していただき、それに応じて勤務も調整していきます。
研修は毎週土曜日の午後13時から1時間で行い、自分が選んだテーマの開催日に参加していただきます。

研修を強制にはしたくない。だから自分でテーマを選ぶスタイルで参加

当法人では、保育方針について年に1回職員へ対して説明会を行っているのですが、今年はコロナ禍もあり説明会ができなかったため、園独自で実施することになりました。今回は説明会という

聞くだけでなくグループワークをすることで 活発な意見交換を実現

研修形式は、全参加者が20分程度で一斉に講義を聞き、残り40分はグループワークという時間配分で行いました。
一方的な知識のインプットにならないよう、パートタイムの先生が日頃思っていることや意見を出しやすいようにグループ



ワークの時間をしっかりとる工夫をしました。
研修後は紙ベースでの振り返りの機会も設けています。
参加したい研修に参加しているので、参加者も意欲的でグループワークでも、パートタイムの先生も意見を活発に出し合っている様子がみられていました。
正規職員と一緒にあってよりよい保育を実現したいという思いを語り合う良い機会になったと思います。

園の運営で欠かせないパートタイムの先生
ですが、時間の都合等で正規職員の先生同様の
研修の機会をもつことが難しい園も多いのではないのでしょうか。
「興味ある分野」を選んで参加できるOn-line研修とグループワーク
の組み合わせは、先生が主体的に、集中して密度濃く学べる
素敵なアイデアですね。

モデル園の皆様には、保育のデザイン研究所のOn-line研修を
受けていただけますので、日常の保育振り返りのやりかたの
ひとつとして、参考になさってください。



トマトがある子どもの世界

カゴメトマトのドキュメンテーション（心育保育園より）



「葉っぱ大きくなってね！」

シーンの紹介

4月末に、2歳児（うさぎ組）さんは、KAGOMEさんからいただいたトマトの苗を植えました。給食の先生に、トマトの苗を見せてもらっている子どもたちの様子です。

写真の読み取り

この年齢からしたら、ただの葉っぱに見えています。ここからトマトができるんだと説明していますが、子どもたちは「ほんとに？」という顔をしています。

考察（保育者として自分が感じ、考え、したいとおもったこと）

トマトの苗というのを2歳児に伝えるのは難しい。
育てる中で「ほんとうだったんだ！」と感じてほしいです。
子どもたちは園庭で遊んでいるときに、園庭の片隅の畑に毎日行きます。遊びの途中で畑に行き、トマトの葉っぱに話しかける姿が見られます。
また、先生や友達を誘って見に行っています。それにより、2歳児ならではの「見て見て～」というコミュニケーションがぐっと増えているように感じます。
また、水やりをしている中で子どもたちが「はっぱがいっぱいだね、おおきくなってきたね」というつぶやきが聞こえてきています。
畑に育つトマトのほか、裏手に子どもが来ない場所にもトマトが植えてあるのですが、子どもが毎日声をかけるトマトのほうが苗が元気になってきていることを職員が感じています。
声をかけてもらったトマトとそうでないトマトの成長や味の違いを観察するプロジェクトが職員間で生まれたので、こちらも展開が楽しみです。

株式会社Step up統括管理責任者 村本 あすか先生



保 育 者 か ら の 贈 り 物 Vol.10

「ブランコの後ろにね、大きな森があるんだよ」と、今日の保育園で過ごした出来事を話した息子。
「その森でね、梅の実を拾ったの。とお～っても大きな種なんだよ！」と嬉しそうに、園庭で梅の実を拾った事を話してくれました。実際は園庭のブランコの後ろに園芸エリアがあるのですが、息子の目には「森」と映っているようで先生達もその視点を大事にしてくれて「園庭にある森へ行こう～」と誘ってくれているようです。この経験から、「大きな木の下には何かしらの実が落ちているかも！」と、お迎えの帰り道も毎日探索しながら帰るようになりました。

また別の日は「今日ねフウセンカズラの種を植えたんだよ！」と自信ありげに伝える息子。「フウセンカズラ!？」私は初めてきた名前で、今や3歳の息子の方が植物について詳しくなっています。園で季節を通した豊かな経験をさせて頂く事により「日々の保育園からの帰り道」という日常も「何か発見できるかも!」とワクワクな時間になったり、今まで何気なくリビングに置いてあった図鑑も、種を探す為にドキドキで図鑑を開くようになったりと、息子を通じて保護者の私自身まで彩り豊かな経験を体験させてもらっています。家庭ではなかなかしてあげられない事を、園の活動を通じて様々な体験をさせて頂き、先生達には感謝してもしきれません。これからは園庭で綺麗な色の朝顔が咲く季節かな?楽しみだね!





全国の数百園のご応募の中から、スマート保育園®のモデル園11園が選出されました。

当園は、スマート保育園®のモデル園です。

スマート保育園®って？

テクノロジーの支援で、
保育者の「心」と「時間」にゆとりが生まれ、
子どもと向き合うことに集中できる保育園です。

お子さまと「もっと向き合いたい」という
保育者の想いを支えます。

スマート保育園に
なると、子どもにとっては
どう良くなるの？

紹介動画をご覧ください



※お使いのカメラアプリで、QRコードが読み取れます。

1. 複雑な保育の現場業務を、見える化し、その中にひそむ課題を洗い出します。
2. ルクミーの全サービス*を全て導入して、園業務を効率化し、保育者がお子さまに向き合う時間を増やします。



全国のモデル園



3. 保育者へのオンライン研修や保育者ケアなど、保育の質向上への支援を受けます。

* テクノロジーによる業務支援サービス



お子さまと向き合う
保育

資料作成など
園業務

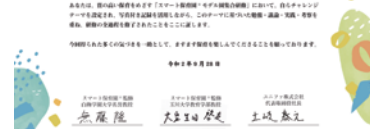
保育の質向上のための
研究活動

ルクミー オンライン研修、保育者ケア



修了証

ゆにふあ 保育園 由にるくみ 園



Creating new infrastructure for society that brings happiness to families around the world

家族の幸せを生み出す
あたらしい社会インフラを
世界中で創り出す



UniFa